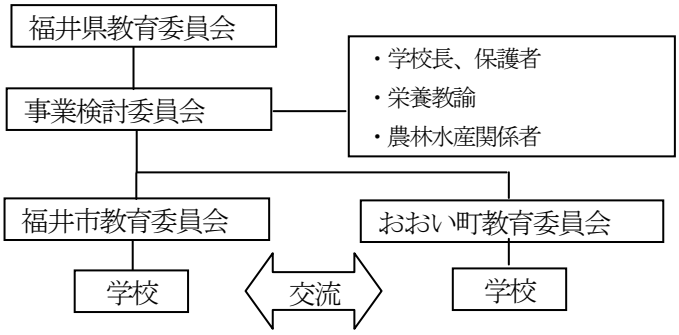
栄養教諭を中核とした食育推進事業
事業結果報告書

都道府県名	福井県
再委託先名	福井市、おおい町

1．事業推進の体制



2．事業内容

テーマ1	地域の食材を活用したおいしい学校給食

県内２地域（福井市、おおい町）に再委託を行い、子ども達の体験活動や給食で交流を行う。

○２地域の学校が交流学習を行い、子ども達がお互いの特産物や地域の特徴を紹介しあったり、体験学習等を行う。

新たな食材を知るとともに、他の地域に自分の地域の食材を伝えるため、改めて自分の地域の食材や地域そのものを学ぶことから、地域への愛着を深めることにつながる。

○一方の市町の特産物を使用した献立を、他方の市町の給食で実施する。

学校給食では、地場の食材が学校給食に活用されているが、同じ県内でも馴染みのない食材やそれらにまつわる食文化については知られていないことがある。新たな食材に触れることで、これまで知らなかったおいしさを知る。

テーマ2	学校における食育活動の周知

学校における食育活動の状況を、報道機関、県ホームページ等を活用しながら県内に周知し、食育に関する理解を深める。

○学校給食調理コンテスト【平成２４年８月２３日（木）】の開催

県内の学校から参加希望チーム（児童生徒２名、調理員、栄養教諭等）を募り、書類審査を通過したチームが「子ども達が食べてみたい学校給食」を調理し、アイディアや出来栄え等を競う。

※（公財）福井県学校給食会共催。給食会により、冊子を作成。

○学校給食レストラン【平成２４年１１月１７日（土）】開店

県内の食材が充実する１１月の「ふくい　味の週間」（１１日～１８日）の「味の祭典」で、給食レストランを開店した。県民へのアンケート「小学生の頃に食べた好きな給食」からメニューを検討し提供。給食の役割等についても伝え、思いをつなぐ学校給食をアピールした。

○実践発表会【平成２５年１月１９日（土）】の開催

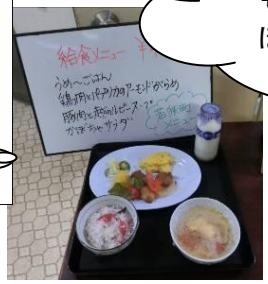
交流事業の取組内容について児童が発表を行った。

○学校給食展【平成２５年１月２１日（月）～２５日（金）】の開催

県庁ホール等にて、写真・展示物で学校給食の内容、様子等を紹介した。

県庁食堂で、学校給食のレシピに基づいた「給食」を食べてもらう機会を設けた。

今の子ども達は幸せですね。栄養満点で。【７０代女性】



地産地消で子ども達に積極的な食育をしているところが素晴らしい。今後も、旬の食材を使って子ども達に味覚の多様性を体験させてほしい。【５０代女性】

テーマ１～２に共通する具体的計画
「ふくいをおいしく食べる食育推進事業」検討委員会の設置 事業を円滑に実施するにあたり、課題の検証や結果の考察を行う事業検討委員会を設置した。県学校給食部会長や保護者代表等による課題の検討、意見交換、交流事業の視察を計画した。 ・第１回検討委員会の開催：７月２０日（金） ２３年度の事業の様子や課題等伝えるとともに、再委託を行う市町の現状把握の結果から効果的な取組が展開できるように意見交換を行った。 ・第２回検討委員会の開催：７月３１日（火）、１０月２日（火） 再委託市町の学校交流の状況を視察した。 ・第３回検討委員会 実践発表終了後、事業実施による効果と今後の課題について検討した。

本事業における評価指標と考察

①学校給食がおいしいと感じる子どもの割合；独自統計（食に関するアンケート）

・学校給食が好きな児童生徒の割合　２３年度　８４．１％　→　２４年度　８７．８％

※学校給食がおいしいと回答する児童生徒の割合　２４年度　８９．９％

②学校給食における地場産食材の活用の割合；独自統計（農林水産部による）

・学校給食地場産使用率（重量ベース）　２３年度平均　３６．５％　→　２４年度平均３７．６％

・学校給食地場産食材使用品目数　２３年度平均　２３品目　→　２４年度平均２４．１品目

本事業の成果

交流事業を行うことがきっかけとなり、各学校の児童が楽しみながら自分の地域の食材、食文化等について意欲的な学習につながった。また、栄養教諭が、積極的に地元および交流地域の食材を活用した給食や学習内容を検討することで、具体的なイメージの定着が可能となった。

今後の課題（今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題）

県内の多くの地域で、実践された内容を周知・発展していく為にも栄養教諭の配置促進とネットワークの構築が重要である。

また、食育を推進していく体制を整える際には、事業の取組を参考にし、栄養教諭単独ではなく子どもの食育に関わる職種の意見や役割等を網羅した資料の作成等も視野におくことが望ましいと推測される。